



TITLE:

星座「獅子」

AUTHOR(S):

宮森, 作造

---

CITATION:

宮森, 作造. 星座「獅子」. 天界 1926, 6(63): 186-189

ISSUE DATE:

1926-03-25

URL:

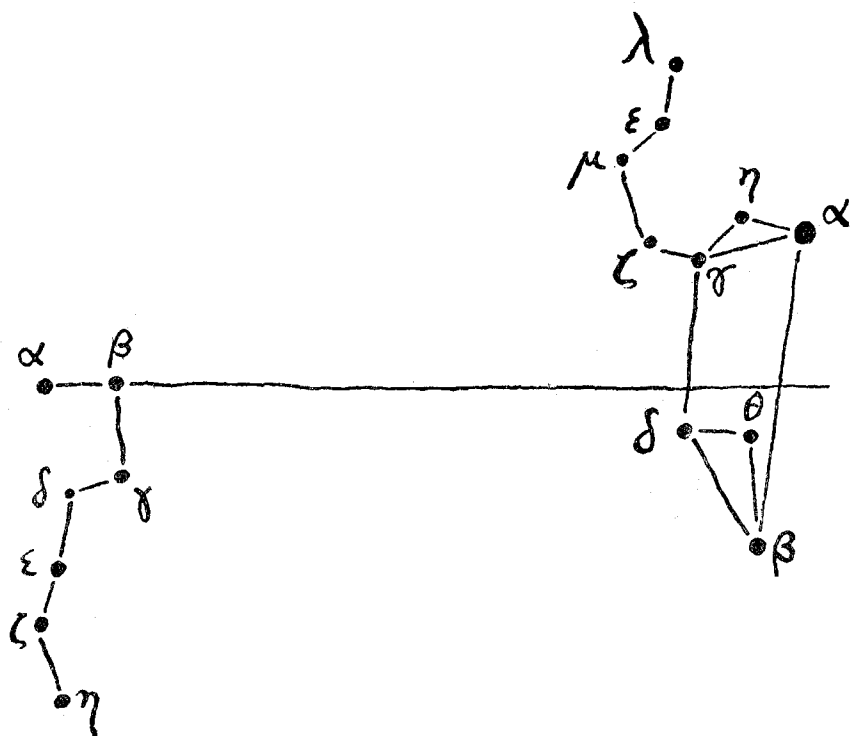
<http://hdl.handle.net/2433/160533>

RIGHT:

# 星 座 「獅 子」

宮 森 作 造

日が西に没するご間もなく獅子座がその雄大な姿を東の空に現はす時節になりました。獅子座は今が一番よく見える時であります。そのわけは毎年八月から九月にかけて太陽が獅子座を通りますからその二ヶ月間は全く獅子座を見るこゝが出来ません。所が太陽は天球上を毎日毎日一度程づゝ東へ進みますから十一月十二月の頃になります。曉に東の空に見える様になり二月から三月にかけては太陽ミ丁度正反對の位置になつて宵には東に夜半には天頂より少し南に曉には西の空にあつて終夜見るこゝ出来る様になります。併し五月六月の頃になります。只だ宵の間だけ西の空に見えるのみでありますから今が一番よく見える時であります。



獅子座が見頃の時になりました。春です。

御覽なさい、あの威風堂々たる有様な。

頭を形成する  $\mu$ (ムー),  $\epsilon$ (エプシロン),  $\lambda$ (ラムダ)  
 前脚あたりの  $\nu$ (ヌー),  $\xi$ (クシー),  $\omicron$ (オミクロン)  
 後脚をなしてゐる  $\sigma$ (シグマ),  $\tau$ (タウ),  $\upsilon$ (ウプシロン)  
 そりわけよく目立つ  $\alpha$ (アルファ),  $\beta$ (ベータ),  $\gamma$ (ガンマ),  $\delta$ (デルタ)の四邊形を  
 $\alpha$ は獅子の胸に輝き

$\beta$ は獅子の尾を飾つてゐます。

嗚呼この獅子の勇姿は、幾千年の大昔より  
 如何に多くの人々の心を喜ばしたことでせう。

これらの星の列び方が獅子の形に似てゐるさば、  
 いつ、だれが、云ひ初めたのでせう。

私はいつも天を仰ぐとき

星の配列の不思議ささ、人の心の微妙ささを  
 つくづく感じるのであります。

昔ギリシヤの人々は、このあたりの星の配列を見て  
 獅子の形を想像しました。

エジプトの人々も、ユダヤの人々も、

印度の人々も、皆同じであります。

幾千年を隔てた今日、私達はこの星座を見て  
 矢張り獅子の姿を思ひ浮べるのであります。

年たち物かはり、人皆あらたまり行くのに

これらの星は尚ほ今後幾千年の間

あの形を保つことでありませう。

かう考へて來ますと、あの星の一つ一つの輝きにも  
 深い意味のこもつてゐるのを感じるのであります。

春です。風も暖くなつて來ました。

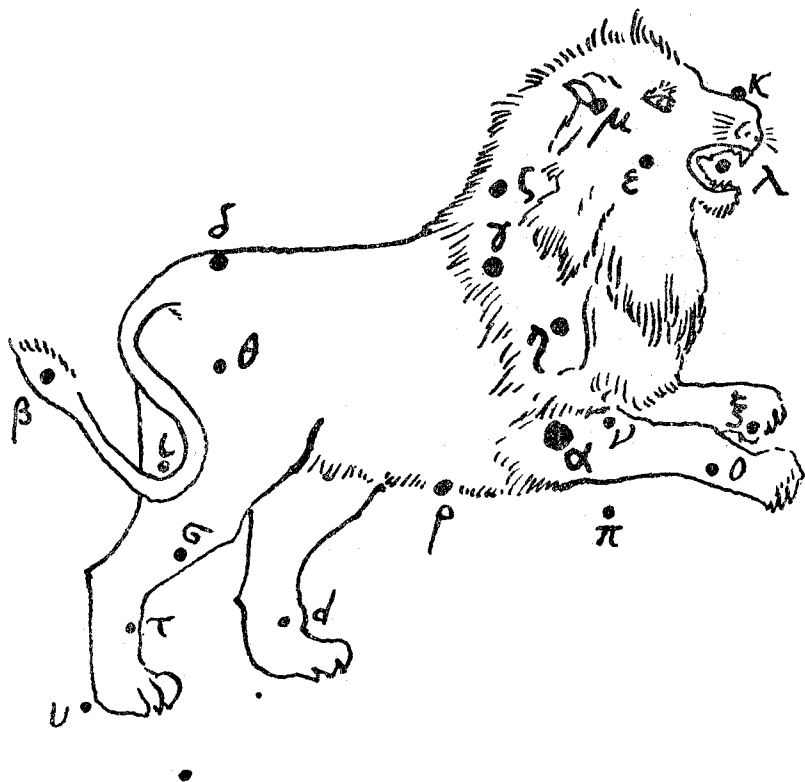
空には高く獅子座の星々が輝いて居ります。

獅子座は黄道十二星座の一つで赤經九時から十二時まで赤緯北三十三度から南七度までの間即ち東西の長さが約四十五度で南北の長さが約四十度さある可成り廣い星座であります。勿論これは端から端までを云つたので實際は境界線が屈曲して居り西南部は六分儀座が入り込んでゐますからその面積はこの四十五度三十四度を掛け合はせたものよりは遙かに少なく約一千平方度位のものでせう。

獅子座の中には肉眼で見える星が約百六十種もありますがその中で最もよく目立つのは  $\alpha, \beta, \gamma, \delta$  の四つの星が圖の如く梯形に近い四邊形にならんでゐることであります。この四邊形が見つかれは獅子の形はすぐわかります。

初めて獅子座を見る人に最も探し易い方法は大熊の  $\alpha, \beta$  即ち北極星を探し出す時に用ひる北斗七星の前二つの星を連ねる直線を北極星を探す時とは反對の方向へ四十度許り延長するところ丁度獅子座の四邊形に達するのであります。

四十度いふのはどれ程の距離か云ひますとよく人が星と星との見掛けの隔りをいふのに「あの星の上二間の所」などいひますがこれはまことに非科學的な云ひ表はし方でありまして人によつてその考へてゐる長さが異なるわけがあります。天球上に於ける星と星との距離を云ふ時は是非角距離で云ひたいものであります。然らば如何にして角距離を知るか云ひますと勿論正確に測るにはそれ相應の器械が必要でありますがちよつと星を探し出す時などの様に極く大體でよい時には私はいつも親譲りの角度計を用ひることにして居ります。



親譲りの角度計とはどんなものか云ひますとこれは<sup>コブシ</sup>拳を握つて臂を前方へ伸び得るだけ伸し一眼を閉ぢ他の一眼にて拳の兩側を通じて見たる視線のなす角が私の手では約十度でありますからこれを四つ寄せれば約四十度になります。この角度計は私だけではなく皆様もお持ちで御座いますから精々お用ひを願ひます。但し手の大きさは人によつて違ひますから豫めお計りおきを願ひます。その方法は前述の如く拳を握つて臂を前に伸し一眼にて掌の兩面を通つて或る點を見それと直角の方向の點までの間に自分の拳は幾つはいるかを見れば自分の

角度計の大きさがすぐわかるのであります。又大熊の $\alpha$ と $\beta$ との間は五度十二分許りでありますからあの二つの間隔を標準にして用ひてもよいわけであります。そうするに獅子座を探し出すにはあの二つの星の間隔の八倍許りの所を見ればよいのであります。

獅子座の四邊形が見つかれば圖と對照してその附近の星を御覽になれば獅子の形がわかりませう。獅子座は又二つの部分に分けて考へることも出来ます。即ち西部の $\alpha, \gamma$  (エータ)  $\gamma$  など六つ許りの星が鎌の形に列んでゐる所と東部の $\beta, \delta, \theta$  (テータ) の三つの星が直角三角形に列んでゐる所とであります。西洋ではこの鎌形の所を sickle 即ち鎌と呼んでゐます。これらの星の並び方を獅子の形に見たてたのは餘程昔からでエジプトでも印度でもユダヤでもギリシヤでも皆同じくこゝを獅子にしてゐます。そしてそれは鎌の部分が獅子の前半を作り直角三角形の部分が獅子の後半を作つて居るのであります。但し支那では鎌の部分を軒轅といひ獅子の尾の $\beta$ とその附近の小さな星四つとを合はせて五帝座といつて居ります。

獅子座の首星 $\alpha$ は白色の光を放つ光度 1.2 の一等星で又の名をレグルスと呼ばれてゐます。レグルスは王といふ意味であつてコペルニクスがラテンの古名 レックス (Rex, 王, 支配者の義) をもちつて附けた名だといはれてゐます。そしてこの星は我が地球から一百十光年の距離にあり毎秒 9 キロの速さで吾等に近づいて來るのであります。この星は黄道に極く接近して居ますから屢々月に掩蔽されます。 $\beta$ は青色の光を放つ二等星で又の名をデネボラといひます。デネボラはアラビア語で獅子の尾といふ意味でこの星は毎秒 1.3 キロ哩の速さで我が地球から遠ざかるのであります。

$\gamma$  は最も美しい二重星の一つでありまして橙色の二等星と緑色の四等星とが 3.6 秒の距離に列んで居て色の着いた二重星として望遠鏡をのぞく人々によりこばれてゐるものであります。獅子の頭に相當する部分は毎年十一月の中旬に多くの流星を見せる獅子座流星群の輻射點として有名な所であります。その他變光星 R など獅子座には面白いものが澤山御座います。この好時機を利用して十分獅子座にお親み下さい。

### 中村要氏の反射鏡製作

京都大學天文臺の中村要氏は、今までの日本の天文學者たちが全然手を付けなかつた新しい新方面にのみぞしぞし進んで行く珍らしいタイプの人である。氏の火星観測や天體寫眞術は何れも日本では獨歩の域である。氏は又、以前から、天體反射鏡の唯一の経験家であるが、さき頃、兵役から歸つて來て、いよいよ望遠鏡のための反射鏡の鏡面を磨き始めた。そして今までに既に直徑 15 センチ級の鏡を五、六個磨き上げた。成績は極めて良好であつて、英のカルザーやエリソンに劣らないと氏自身も言つてゐるし、又、これは京大物理學教室の教授たちの検査の結果でもある。